

北海道新聞函館支社報道部
 函館新聞班 ☎32-5193
 フリーダイヤル ☎0120-325395
 フリーFAX ☎0120-324072
 ※フリーダイヤル、フリーFAXは
 最初に必ず0120をかけてください
 広告の問い合わせは ☎32-5124

地域
情報版

第 495 号

函館

「オーシャンのことはすべて入っています」と半世紀にわたるスクラップを手にする小町さん



「オーシャン」筋

小町 登志喜さん (64)

「オーシャン」に生きて

函館大洋倶楽部(オーシャン)の試合には必ずといっていいほどこの人の姿がある。札幌での公式戦はもちろん、小樽で、黒松内で練習試合と聞けば、迷わず駆け付ける。理由は「仕事が終わってから練習する選手たちのひたむきさに引きつけられるから」。オーシャンを初めて見たのは中学生になったばかりの一九四七年(昭和二十二年)。当時は週末になると東京六大学や本州の社会人野球チームが「函館もうで」を繰り返していた。強い時も弱い時も、勝った時も負けた時もスタンドにいた。「今は、どんな時でもついているぞという気分。絶対ファンをやめるといふ気にはならない」の言葉に、紳士服の仕立て業をしながら半世紀にわたってチームを見守ってきた。

チーム見守って半世紀

た愛着がにじむ。十日から小樽で全日本クラブ選手権道予選、八月二十八、二十九日には道内の企業、クラブの数チームが出場する「函館大会」がオーシヤンスタジアムで開かれる。「もつとみんなで応援したい。せめて函館で試合があるときは球場に行きましようよ」と呼び掛ける。「浮気なファンだったらやらない方がいい」とオーシヤン一筋。だからといって決して熱くなったりしない。「冷静に見るのが一番。じっと見ていたほうが隅から隅まで分かるでしょ」。八年後の二〇〇六年に創部百周年を迎えるオーシヤン。「百周年の時は安心して見ていられるチームでいてほしいな」と期待を込める。

(文 写真 酒井 亮子)